ヨン様の日本語

中村則子

◆ヨン様の日本語が変わった！

先日、テレビを見ていて、驚いた。ヨン様の日本語が驚くほど上達していたのである。それはある警備会社のコマーシャルで、ヨン様は、ひらがなにして 70 字ほどの日本語を、外国人の日本語の中で最上位に位置すると思われる自然で美しい発音で話したのである。数ヶ月前に見た某携帯電話のコマーシャルやお菓子のコマーシャルの時とは比べ物にならないほど、流暢になっている。何がヨン様の日本語を変えたのだろうか。

◆メロディー？



ヨン様の日本語で一番変わったのは、声の上がり下がり、つまり、アクセント・イントネーションである。日本語の発音というと、普通「ツ」「ザ」など個別の音が出せるかどうかという問題（英語で言うと、”r”と”l”の音が出せるかどうかという問題）だと思う人が多いかもしれないが、それ以外に音の高低が大きな問題になる。わかりやすく言うと、歌を歌うときに歌詞を正確に発音できるかどうかが個別の音の問題、メロディーが合っているかどうかがアクセント・イントネーションの問題になる。厳しく採点すれば、ヨン様の個別の音にはまだ問題が残っている。「わたし」の「た」が「だ」に近くなってしまっている。しかし、ヨン様はアクセント・イントネーションに注目した練習をかなり一生懸命に行ったようで、あの 70 文字の台詞に関する限り、完璧にマスターした。その結果、日本人の耳に自然に入ってくる、違和感のない日本語になったというわけである。

◆「への字」型イントネーションって何？

ここで簡単に、日本語のアクセント・イントネーションについて説明しておこう。まず、日本語のイントネーションの特徴は、「への字」型イントネーションであることだ(疑問文は除く)。ひらがなの「への字」のように、低いところから始まって、一度上がり、途中で下がる形である。そして文末は下がるとともに、少し弱まる。消えていく感じである（ヨン様の日本語の文末の弱め方は大変上手である。韓国語話者は是非お手本にしてほしい)。

例えば「ありがとうございます」と言うときに、

ありがとうございます

という風に、「あ」から「り」にかけてあがり、「り」と言ったあとで下がり、そのまま下がってくるのである。

「おはようございます」の場合は少し違う。

おはようございます

しかし、これも「変形への字」と言える。初めと終わりが低いというところは同じであり、違うのはどこで低くなるかである。「ありがとうございます」では、「り」の後で下がり、「おはようございます」の場合は「ま」まで高さをキープしてその後で下がっている。

◆　アクセントって何？



この下がりを決めているのがアクセントである。アクセントというのは、単語ごとに決まっている声の高低である。皆さんも「橋」「箸」「端」などの例を聞いたことがあるだろう。アクセントは、アクセント辞典で簡単に調べることができる。そしてアクセントは次のように書き表す。￣マークの後ろで下げるのである。

あり￣がとうございます　　おはようございま￣す

◆あなたもチャレンジ

簡単な説明であるが、日本語のアクセント・イントネーションについて少しはおわかりいただけただろうか。ヨン様の日本語上達の秘密は、「への字」型イントネーションにあったのである。では、ヨン様の台詞をあなたも練習してみよう。￣はアクセントのある場所、／は区切るところである。視覚的にわかりやすいように、イントネーションの動きを表す線を描いた。会社名は○○○にした。そこは、コマーシャルを見て、ヨン様の発音から、アクセントがどこにあるか、聴き取ってほしい。ヨン様の美しい発音は以下で聞くことができる。お手本にして練習してみよう。

http://www.secom-cm.com/cm.html

わたしは／　○○○にしました。／　たいせつなものを／　まもっているのは／　○○○。／

あなたのたいせつなものは／　なんですか。

あなたにも／　あなたの／　○○○があります。

